

事業番号	15 07 01	事業改善シート（令和4年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	生徒指導推進事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	心の支援課		
		実施期間	S58 ～	E-mail	kokoro@pref.nagano.lg.jp		
総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）との対応関係							
重点目標							
総合的に展開する重点政策	1-1 生きる力と創造性を育む教育の推進	1-2 地域とともに取り組む楽しい学校づくり		4-4 生命・生活リスクの軽減			
	5-1 多様性を尊重する共生社会づくり	5-5 子ども・若者が夢を持てる社会づくり					

1 現状と課題

- ・不登校児童生徒は増加しており、それぞれのニーズに合った支援を行う必要がある。そのため、学校以外の場でも学びが継続できる仕組みを検討する必要がある。
- ・不登校の増加や長期化、またコロナ禍における貧困・家庭環境の悪化に対応するため、スクールカウンセラー（以下SC）による予防的取組や、スクールソーシャルワーカー（以下SSW）による市町村の福祉部局との連携が必要。
- ・スマホ所持やインターネット利用の低年齢化が進み、ネットトラブルやネットいじめの増加、使用時間の増加傾向が見られることから、学校と保護者が連携した予防的取組が必要。また、ICTの活用状況について調査と啓発が必要。

2 事業目的

- ・いじめ・暴力・不登校等が起きにくい魅力ある学校づくりを支える。
- ・不登校児童生徒がそれぞれの学びたい場所及び方法を保障する。
- ・いじめや不登校などの悩みについて子どもや保護者等が安心して相談できるようにする。
- ・性被害防止に関する指導・情報モラル教育によって、子どもたちを性暴力の被害者にも加害者にもさせない。

3 予算のポイント・主な取組（当初予算又は補正予算時の実施予定）

①不登校児童生徒の学習機会の確保及び社会的自立に向けた支援

- ・学習機会の確保及び社会的自立に向けた支援のため、不登校児童生徒が教室以外でも学習できる仕組みの検討と周知

②SCによる予防的・早期発見の取組及びSSWによる児童生徒を取り巻く環境等の改善を実施

- ・SC事業において、医療的な支援を必要とする子どもの早期洗いだしのため、全小学4年生と中学1年生に対し、学年会への出席や全員面接を実施
- ・SC事業において、早期に支援を開始することにより二次障害や疾患の重篤化を防ぐため、臨床心理の専門性を活かし、ストレスマネジメント等の心理教育を実施
- ・SSW活用事業において、家庭環境に困難を抱える児童生徒・保護者の早期発見・支援のため、市教育委員会への派遣を継続し地域の福祉部局と連携した支援体制を構築

③相談窓口設置による学校生活に関する様々な問題の改善を実施

- ・いじめや不登校など、学校生活における児童生徒や保護者の様々な悩みについて相談に応じるため、フリーダイヤルの24時間相談窓口を開設
- ・いじめや不登校などに起因する自殺防止のため、中学生・高校生向けLINE相談の窓口を通年で定期開設



LINE相談画面イメージ

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R2年度		R3年度		R4年度		R4年度目標値	達成状況	設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移				
①	SSWを介した学校と地域関係機関との連携ケース	件	2,269	2,369	↗	2,495	↗	2,400	達成	いじめ、不登校、暴力行為などの背景にある家庭的な問題に対して、社会福祉や精神保健福祉の専門家であるSSWが介入し、総合的な支援を実施することにより児童生徒を取り巻く環境等の改善を目指すため、成果目標に設定し、令和4年度は前年度と同程度を維持することを目標に当該数値を設定した。	
②	SSWの介入により一定の改善が図られたケース	%	55.2	60.3	↗	60.9	↗	57.0	達成	いじめ、不登校、暴力行為などの背景にある家庭的な問題に対して、社会福祉や精神保健福祉の専門家であるSSWが介入し、総合的な支援を実施することにより児童生徒を取り巻く環境等の改善を目指すため、成果目標に設定し、SSW人員増や過去の実績等から令和2年度比+2%を目標に当該数値を設定した。	

5 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R4年度	0	390,806	0	390,806	244,321	376,008	13.0
R3年度	0	385,795	0	385,795	254,504	367,260	13.0
R2年度	0	362,114	△464	361,650	238,039	348,987	13.0

事業番号	15 07 01	事業改善シート（令和4年度実施事業分）			<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	生徒指導推進事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	心の支援課		

6 主な取組実績と成果

<p>①不登校児童生徒の学習機会の確保及び社会的自立に向けた支援</p> <p>・モデル事業を4市町へ委託し、有識者等が不登校に係る課題を協議する懇談会を年3回実施することで、有識者等による支援の仕組みづくり等検証を推進した。</p> <p>②SCによる予防的・早期発見の取組及びSSWによる児童生徒を取り巻く環境等の改善を実施</p> <p>・全ての公立小・中学校へ計32,061時間、県立高校及び県立特別支援学校へ計7,551時間SCを派遣し、支援を必要としている児童生徒の悩みに適切かつ迅速に対応した。また、SSWを教育事務所に配置するとともに市教育委員会に派遣し、児童生徒の問題の背景にある家庭的な問題の改善に向けた支援を計21,803時間実施することで、児童生徒を取り巻く環境等の改善を図った。</p> <p>③相談窓口設置による学校生活に関する様々な問題の改善を実施</p> <p>・24時間相談電話で年間を通して臨床心理士又は公認心理師1名を配置し、夜間休日は民間に委託して常時2名以上の相談員による対応を行い、LINE相談「ひとりで悩まないで@長野」を毎週水曜日と長期休業日前後の日曜日にも開設し、年間で72日間窓口を開設することで、学校生活に関する様々な問題の改善を図った。</p>

7 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	S S Wを介した学校と地域関係機関との連携ケース	R3年度推移	↗	R4年度推移	↗	達成状況	達成
S S Wの増員及び支援時間の増加により、対応件数を増やすことが出来たことで、連携のケースも増加した。							
指標②	S S Wの介入により一定の改善が図られたケース	R3年度推移	↗	R4年度推移	↗	達成状況	達成
スーパーバイザー体制、S S Wへの研修及び市派遣の充実等によりS S Wの質が向上したことで、支援内容の質も向上したため、一定の改善が図られたケースの割合が増加した。							

8 今後の事業の方向性

<p>(1) 令和4年度の実績、成果指標の分析及び県民の意見等を踏まえた課題</p> <p>・相談体制の充実のためにSSW及びSCの人員及び支援時間増と支援内容の質の向上が必要であり、学校現場からもそれを求められている。</p> <p>・不登校児童生徒の支援について、モデル事業の内容や成果を他市町村に広めていく必要がある。</p> <p>・学校生活相談のLINEでの相談希望者においても必要な時に相談できる体制のさらなる整備が必要となる。</p>
<p>(2) 翌年度以降の事業改善の方策</p> <p>・引き続きSSW及びSCの人員及び支援時間増と質の向上を検討していく。</p> <p>・不登校児童生徒の支援について、モデル事業の内容や成果を各市町村へ周知し、それぞれの市町村の取組を引き続きフォローしていく。</p> <p>・学校生活相談について、LINE相談窓口開設日の増加等を検討していく。</p>

事業名	生徒指導推進事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	心の支援課
-----	-----------	----	----------	-----	-------

細事業 No.	細事業名	R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
1	生徒指導推進事業費	327,007 千円	350,960 千円	351,880 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	いじめ・不登校等総合対策	直接委託	不登校児童生徒の学習機会を確保し、社会的自立に向けた支援のため、市町村と連携した支援体制の構築や不登校児童生徒の支援者等との連携を実施 ・有識者等による支援の仕組みづくり等検証のためのモデル事業を4市町へ委託 ・有識者等が不登校に係る課題を協議する懇談会を年3回実施	
2	子どもの自殺対策の推進	直接委託	子どもの自殺予防対策のため、コミュニケーション能力向上研修や教員研修会、高校生・教職員・保護者を対象とした相談力向上研修を実施 ・高校生を対象としたコミュニケーション能力向上研修等 23回 ・教員研修会 2回（中学校・高校の教員が参加） ・高校生・教職員・保護者を対象とした相談力向上研修 22校	
3	スクールカウンセラーによる心の支援	直接	全ての児童生徒が安心して学校生活を送り、学習に取り組めるよう、児童生徒の悩みに適切かつ迅速に対応できるスクールカウンセラー（公認心理師、臨床心理士等）を配置し、各学校における相談体制の充実を図った。 ・支援を必要としている児童生徒の相談対応のため、全ての公立小・中学校へ計32,061時間配置、県立高校及び県立特別支援学校へ計7,551時間派遣	
4	スクールソーシャルワーカーによる福祉的支援	直接	いじめ、不登校、暴力行為などの背景にある家庭的な問題に対応するため、社会福祉や精神保健福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーを配置し、地域や専門機関等と連携して困難を抱える児童生徒を取り巻く環境の改善に向けた総合的な支援を実施 ・教育事務所に配置するとともに市教育委員会に派遣し、児童生徒の問題の背景にある家庭的な問題の改善に向けた支援を計21,803時間実施	

細事業 No.	細事業名	R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
2	学校生活相談体制充実事業費	20,675 千円	14,843 千円	22,735 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	24時間相談電話	直接委託	いじめや不登校など、学校生活における児童生徒や保護者の様々な悩みについて相談に応じるため、フリーダイヤルの24時間相談窓口を開設 ・年間を通して臨床心理士又は公認心理師1名を配置。また、夜間休日は民間に委託し、常時2名以上の相談員が対応	
2	LINE相談「ひとりで悩まないで@長野」	委託	中学生・高校生の通信手段が電話からSNSに移行していることを踏まえ、通年で定期開設し、いじめや不登校などに起因する自殺防止に向けた相談を実施 ・毎週水曜日と長期休業日前後の日曜日にも開設し、年間で72日間窓口を開設	

細事業 No.	細事業名	R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
3	性被害防止に向けた指導充実事業費	1,305 千円	1,457 千円	1,393 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	子どもの性被害防止教育キャラバン隊の学校派遣	直接	専門家を活用した「性被害防止教育キャラバン隊」を編成・派遣し、子どもたちの「危険を察知し回避する力」を育成 教職員研修会を開催し、指導力の向上を図るとともに、児童生徒向けの啓発資料を作成し配布 ・インターネットを介した性被害を防止する専門家を学校に派遣 135回 ・教職員向けの性被害防止のための指導方法等研修会 4回	